

地域に求められる薬剤師になるために ～地域ケア会議模擬討論会を通して～

総合メディカル（株） そうごう薬局

臼杵コスモス店¹⁾、中津店²⁾、日田豆田町店³⁾、南仙台店⁴⁾

○中村 健治¹⁾、神本 貴恵²⁾、津下 裕季穂³⁾、大高 空⁴⁾

【目的】

「地域ケア会議（以下ケア会議）」において、薬剤師には、事例に示された処方・併用薬に関する情報及び個々の情報に応じた服薬管理の観点から助言を行うことを求められているが、有用な提案ができるかは薬剤師個人の経験及び知識に委ねられている。そこで、大分ブロック全薬剤師を対象に、ケア会議への理解を深め、地域連携に貢献できるよう地域ケア会議模擬討論会（以下討論会）を実施したので報告する。

【方法】

大分ブロック 10 店舗の薬剤師 24 名を対象に、討論会を 6 月、7 月の 2 回実施した。講師はケア会議に参加経験のある 5 名の薬剤師が行い、模擬症例はケア会議に参加した薬剤師が担当した症例記録を基に作成した。症例記録はケア会議に参加した薬剤師が利用者情報（身体・家族・生活・栄養・医療などの各状況、ケアプランの目標など）や利用者の課題・問題点、薬剤師の助言などの項目について作成した。それに基づき、模擬症例として、本人の思いや背景、医療状況、ケアプランの目標、薬剤師の意見、他職種からの質問・意見、薬剤師の助言などを作成した。討論会では、講師より、模擬症例に関する解説を行い、3~4 人の小グループにて助言内容について検討した後、各グループの発表を行った。

【結果】

参加者は 6 月 10 名、7 月 17 名であった。参加した薬剤師からは「地域ケア会議の流れ・内容が把握できた」「ケアマネージャーの方針に沿った助言について一定の目安がついた」「より多角的な検討が以前よりできた」「服薬指導以外で他職が薬剤師に求めていることがわかった」などの意見があがった。

【考察】

実症例を基に討論することにより、ケア会議への理解が深まったと考える。また、ケア会議で検討する利用者には様々な背景があるため、薬剤師が地域連携に貢献するためには、薬学的な視点はもちろん、利用者・多職種の視点を持ち多角的な検討ができることが必要だと考える。